

2014 年に輸入検疫で発見された主な重要病害虫

2014 年我が国には、貨物 63.8 万件、携帯品 28.8 万件、国際郵便物 10.6 万件、計 103.2 万件の植物類が輸入されている。これらの植物からは、輸入検査等の結果、我が国が海外からの侵入を警戒している重要な病害虫が数多く発見されている（表）。特に輸入禁止対象病害虫は携帯品・郵便物として輸入される生果実から発見されることが多い。植物防疫所では、植物検疫制度と輸入が禁止されている生果実等があることの周知・啓発を行い、病害虫の侵入阻止に努めている。

	病害虫名	発見件数	発見植物	輸出国・地域	輸入形態
輸入禁止対象病害虫	<i>Bactrocera dorsalis</i> species complex ミカンコミバエ種群 (286 件)		マンゴー生果実、グアバ生果実、バンレイシ生果実、レンブ生果実、ライチ生果実、その他生果実 22 種	ベトナム、フィリピン、タイ、インドネシア、台湾、その他 9	携帯品・郵便物
	<i>Bactrocera cucurbitae</i> フリミバエ (22 件)		ニガウリ生果実、ヘチマ生果実、ポインテッドゴード生果実、ワリ科生果実、トカドヘチマ生果実	ベトナム、タイ、バングラデシュ、フィリピン、インド、その他 3	携帯品
	<i>Cylas formicarius</i> アリモドキソウムシ (7 件)		サツマイモ	中国、フィリピン、インドネシア	携帯品・郵便物
	<i>Ceratitis capitata</i> チチュウカイミバエ (1 件)		トウガラシ生果実	ナイジェリア	携帯品
	<i>Anarsia lineatella</i> モモキバガ (6 件)		サクランボ生果実	米国	貨物
特定重要病害虫	<i>Diabrotica undecimpunctata</i> ジュウイチホシワリハムシ (5 件)		ロケットサラダ莖葉、混合野菜（加工）、ラズベリー生果実	米国、メキシコ	貨物
	<i>Anastrepha fraterculus</i> ミナミアメリカミバエ (1 件)		マンゴー生果実	ペルー	携帯品
	<i>Lygus lineolaris</i> サビロカスミカメ (1 件)		セロリー莖葉	メキシコ	貨物
重要病害虫	<i>Bactrocera latifrons</i> ナスミバエ (412 件)		トウガラシ生果実、トウガラシ属生果実、キダチトウガラシ生果実、ナス属生果実、ナス生果実、その他 3 種	タイ、ベトナム、フィリピン、ネパール、バングラデシュ、その他 6	携帯品・郵便物
	<i>Liriomyza langei</i> ハモグリバエ科の一種 (118 件)		セロリー莖葉、レタス莖葉、ロメインレタス莖葉、ブロッコリー莖葉、エンドウ生果実、チシャ莖葉、その他 2 種	米国	貨物
	<i>Heliothis virescens</i> ニセアメリカタバコバガ (90 件)		アスパラガス、セイヨウカボチャ、ヒョウタン属生果実	メキシコ、ペルー	貨物
	<i>Bactrocera correcta</i> セグロモミバエ (60 件)		グアバ生果実、アセロラ生果実、レンブ生果実、マンゴー生果実、インドナツメ生果実、その他生果実 6 種	ベトナム、タイ、カンボジア、ミャンマー、スリランカ、フィリピン	携帯品
	<i>Helicoverpa zea</i> アメリカタバコバガ (44 件)		アスパラガス、セイヨウカボチャ、ラズベリー生果実、コリアンダー莖葉、ロメインレタス莖葉、その他 2 種	ペルー、メキシコ、米国、コロンビア	貨物
	<i>Uromyces betae</i> テンサイさび病菌 (38 件)		テンサイ種子、サトウダイコン種子、フダンソウ種子、フダンソウ属種子、フダンソウ種子	フランス、米国、スウェーデン、ニュージーランド、韓国、その他 3	郵便物・貨物
			オレンジ生果実、セイヨウカボチャ生果実、アスパラガス、ライム生果実、キャベツ莖葉、レモン生果実、ピーマン生果実、その他 24 種	メキシコ、オーストラリア、ニュージーランド、オランダ、その他 15	携帯品・郵便物・貨物
	その他の重要病害虫 (109 件)				

海外のニュース —韓国における火傷病の発生—

2015 年 5 月 29 日、韓国農林畜産食品部は、韓国北西部の京畿道安城のナシ果樹園で火傷病疑似症状が発見され、精密検定を実施した結果、火傷病（病原細菌 *Erwinia amylovora*）と診断されたことを発表した。我が国では、この発生報告を受け、2015 年 6 月 1 日より、同国からの本細菌の宿主植物の生植物（種子を除き、生果実、花及び花粉を含む）の輸入を停止している。また、本病の侵入防止のため、植物防疫所及び各都道府県の病害虫防除所による侵入警戒調査を常時行っている。

本細菌はナシやリンゴなどの多くのバラ科植物に感染し、り病した植物は火にあぶられたような黒変症状を示し急激に枯れあがることが病名の由来となっている。本細菌は花や傷部から樹体内に侵入して、花腐れ、葉焼け、枝枯れを起こし、さらに主幹へと広がり、胴枯れや枯死を起こす。本細菌は北米、南米、ヨーロッパのほぼ全域及び西アジアの一部に分布する。新規に発生した地域では時に壊滅的な被害を生じ、さらに根絶も困難なことが

ら、各国で最も警戒されている植物病害の一つである。

韓国政府は直ちに専門家を現地に派遣し、発生状況を調べ、本病の発生が疑われるナシ樹の伐採等の防除を緊急に実施、さらに韓国全土の主要なナシ又はリンゴの果樹園とその周辺の林野等で発生調査を実施した。その結果、京畿道安城の他、忠清南道天安及び忠清北道堤川において発生が確認され、本病の拡散防止と早期撲滅のために感染植物及びその周囲半径 100m 以内にある全ての宿主植物の除去、その周辺部のモニタリング等の対策を実施している。なお、本病発生の原因、伝搬経路等について、大学、研究機関等の専門家による疫学調査が実施されている。

発行所 横浜植物防疫所

発行人 小野 仁

編集責任者 塚本 貴敬

掲載 植物防疫所ホムナル <http://www.maff.go.jp/pps/>

無断転載禁止